



エンジンルームにはカーボンインテークが目目を惹くグループMのラムエアシステムを装着。ターボ過給圧をコントロールするブースターチップはストラットタワー左に確認できる。



3Dデザインのブースターチップ。バージョン2は調整式で本体裏のダイヤルで任意に過給圧を設定する。

EQUIPMENTS

POWERTRAIN	3D DesignブースターチップVer.2/エアクリナー —Gruppe Mラムエアシステム/エキゾースト=ARQRAY
CHASSIS	サスペンション=3D Design車高調キット/ホイール=Brombacher (E19x 8J+46 B19x 8J+54)/タイヤ=YOKOHAMA ADVAN Sport (E225/35-19 B255/30-19)
EXTERIOR	3D Designカーボンボンネット、フロントリップスポイラー、トランクスポイラー、リヤディフューザー、カーボンミラーカバー/オリジナルボディストライプ (3D Designより発売予定)
INTERIOR	3D Design with STACK 3連メーター (油圧、水温、ブースト)/3D Designスポーツペダルセット/3D Designフロアマット



フロントにはリップスポイラーをプラス。純正Mスポーツバンパーに対応したパーツだ。



カーボンボンネットは新製法によりドライカーボン並みの重量。エアロキャッチも一体化される高クオリティだ。



サイドミラーはカーボンミラーカバーでドレスアップ。サイドを走るボディストライプは今後発売予定。

リヤディフューザーにはカーボンが使用され本格派の扱い。現在エキゾーストはアーキユレーを装着する。

スティックなイメージのブロンパッド19インチにアドバンスポーツのE225/35、B255/30。足は3Dの車高調サス。

ている。135iのターボエンジンからさらなるパワーを得る最短の方法として、3Dデザイン製のブースターチップの投入がある。つまり、ブースターアップだ。ノーマルの最大過給圧は0・6kgf/cm²となっているが、ブースターチップにより最大過給圧を0・8kgf/cm²まで引き上げている。これによりノーマルクラス40ps以上のパワーと、プラス7kgm以上のトルクアップに成功している。

グでクラッチを繋ぐだけで事足りる。ブースターアップで、さらなるトルクを得ているが、もともとパワフルなクルマなのでちよつと転がした程度ではその差は体感しにくい。しかし、アクセルを踏み込めばその差は歴然だ。特に4000rpmからは強大なパワーが押し寄せ、一種暴力的と表現できるほどの走りを楽しみ手に味わせてくれるのだ。足まわりをチェックしてみると、3Dデザインの車高調キットを装着。車高調と聞けば、どうしても「硬い」イメージが付きまとうが、実際のイメージとは意外にもソフトだ。まず凹凸自体の当たりには、一瞬でサスが沈んで車体の平衡を保つようなセッティングで、どんな場面においても

サスがよく路面を追随するという印象。ストリート走行をメインに、サーキット走行会にも対応、という狙いのサスキットだそう。攻めたときの挙動もさることながら街乗り時の快適性もかなりのものだ。2010年1月に開催されるオートサロンでは、3Dデザインから新たにオリジナル・マフラーもリリースされる予定。BMW用の魅力的なマテリアルを次々とリリースする同ブランドから、しばらく目が離せそうもない。



秘めたるは340ps

デザインに機能がしっかり裏打ちされていることがコンセプト。それは、走りそのものもデザインするということだ。アクセルを踏み込めば、明確に跳ね返ってくるパワー。コーナーやバンピーな路面では剛柔のフットワークが冴える。

3D Design BMW135i COUPE

このボンネットの下に鎮座するエンジンユニットには、より優れた動力性能を引き出すと手が加えられ

ア ルピンホワイトのボディに明確なコントラストを生むカーボンボンネットが、走りへの本気度をさりげなく伝える。足下はボンネットとブラックでコーディネートされたかのようなブロンパッドの19インチ・メッシュホイール。ベースとなるクルマはBMW135iクーペで、しかもMTモデルだというから、これはかなりの「走り系」と見て間違いない。



シフト前にはスタックの3連メーターを純正のようにインストール。左から油圧、水温、ブーストの順に並ぶ。

COMPACT NOW!

TEXT●木村和晴(KAZ-K)
PHOTO●市 健治(Kenji Ichi)